

# みずほマーケット・トピック(2014年11月28日)

## 週末版

### 内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

#### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は軟調な展開。週初 24 日に 117 円台後半でオープンしたドル/円は、先週発表された中国の政策金利引き下げや、ドラギ ECB 総裁のハト派な発言を受けた追加緩和観測を背景にアジア株が堅調に推移する中で底堅く推移。25 日は日銀決定会合議事要旨が公表され、黒田日銀総裁自身が追加緩和を提案したことが明らかになり、一時週高値となる 118.59 円をつけたが、利益確定売りや月末週の輸出勢のドル売りに 117 円台後半まで押し戻された。米 7~9 月期 GDP(2 次速報)は予想外の上方修正となり 118 円前半まで上昇する動きがみられたが、米 11 月消費者信頼感指数の弱い結果に再び 117 円台後半へ下落。26 日は一連の米経済指標が総じて軟調な結果となると一時 117 円台半ばを割り込み、その後は翌日の感謝祭を控え方向感に欠ける動きとなった。翌 27 日は前日の弱い米経済指標が意識され、ドル/円は一時週安値となる 117.24 円をつけたが、米国市場休場でさらに下値を試す動きはみられず、ECB の追加緩和観測を受けたユーロドルの下落などに支えられ、本日にかけて 118 円近辺まで値を戻している。
- 今週のユーロ/ドル相場は上昇する展開。週初 24 日に 1.23 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、アジア株が上昇する中でじりじりと値を上げ、独 11 月 IFO 業況指数が予想に反して 7 か月ぶりの上昇となると 1.24 台半ばまで一段高となった。翌 25 日はユーロ/円の下落に連れてじり安となる中、予想外の上方改定となった米 7~9 月期 GDP(2 次速報)を受けて一時 1.2402 まで下落。しかしその後、米 11 月消費者信頼感指数の弱い結果を受けたドル売りに 1.24 後半まで急反発した。26 日はコンスタンシオ ECB 副総裁が国債購入の可能性について言及すると 1.24 台半ば割れまで値を下げたが、米経済指標の冴えない結果が相次いだことでユーロ/ドルは 1.25 を突破し、一時週高値となる 1.2532 まで上値を伸ばした。翌 27 日はスペイン 11 月消費者物価指数(CPI)が下振れると ECB の追加緩和観測から 1.24 台後半まで反落し、その後も独 11 月 CPI が約 5 年ぶり低水準となったことから上値重く、本日にかけて 1.24 台半ば近辺で軟調となっている。

#### 今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		11/21(Fri)	11/24(Mon)	11/25(Tue)	11/26(Wed)	11/27(Thu)
ドル/円	東京9:00	118.25	117.79	118.45	117.80	117.62
	High	118.37	118.48	118.59	117.98	117.89
	Low	117.36	117.58	117.69	117.43	117.24
	NY 17:00	117.80	118.28	117.97	117.74	117.79
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2543	1.2373	1.2435	1.2480	1.2505
	High	1.2569	1.2445	1.2487	1.2532	1.2524
	Low	1.2375	1.2360	1.2402	1.2443	1.2465
	NY 17:00	1.2387	1.2442	1.2475	1.2505	1.2468
ユーロ/円	東京9:00	148.31	145.69	147.29	147.01	147.08
	High	148.43	147.32	147.38	147.41	147.23
	Low	145.70	145.59	146.31	146.51	146.43
	NY 17:00	146.03	147.12	147.17	147.23	146.75
日経平均株価	17,357.51	17,357.51	17,407.62	17,383.58	17,248.50	
TOPIX	1,400.18	1,400.18	1,409.15	1,406.40	1,391.90	
NYダウ工業株30種平均	17,810.06	17,817.90	17,814.94	17,827.75	17,827.75	
NASDAQ	4,712.97	4,754.89	4,758.25	4,787.32	4,787.32	
日本10年債	0.46%	0.46%	0.45%	0.44%	0.43%	
米国10年債	2.31%	2.31%	2.26%	2.24%	2.24%	
原油価格(WTI)	76.51	75.78	74.09	73.69	73.69	
金(NY)	1,201.55	1,197.09	1,200.95	1,197.90	1,191.07	

#### ドル/円相場の動向



#### ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 来週、米国では月初恒例の重要指標の発表が相次ぐが、最大の注目は、やはり12月5日(金)の11月雇用統計である。11月雇用統計の調査週に当たる11月第2週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す4週移動平均で28.8万件と10月調査週の28.1万件から上昇している。米労働省は結果について特殊要因はないと発表しているが、11月上旬は寒波に襲われたことで建設やレジャー部門等が影響を受けた可能性がある。一方で、11月は年末商戦に向けた季節的な雇用が急増する時期であり、運輸や小売業での大幅な雇用拡大が予想される。総合的にみれば労働市場は着実に回復しているとみられ、市場では非農業部門雇用者数に関し前月比+22.5万人と前月の同+21.4万人から増加、失業率は5.8%と前月から横ばいが見込まれている。そのほか、1日(月)には11月ISM製造業景気指数の発表があるほか、3日(水)には11月ISM非製造業景気指数や11月ADP雇用統計の発表などが予定されている。金融政策に関し要人発言では、1日(月)にフィッシャーFRB副議長とダドリーNY連銀総裁の講演があるほか、2日(火)にはイエレンFRB議長の講演などが予定されている。
- 欧州では、4日(木)にECB理事会が開催される。11月21日にドラギECB総裁が「インフレ率とインフレ期待をできる限り迅速に高めるために、やらなければならないことを行う」と述べ、市場ではECBによる本格的な量的緩和(QE)への期待が根強い。だが、現状は既存政策に注力しており、例えば10月に開始したカバードボンド購入プログラム第三弾(CBPP3)の購入ペースからはバランスシート(B/S)拡大への強い意気込みを感じられる。また、資産担保証券購入プログラム(ABSPP)も今月に開始されたほか、12月11日に第2回TLTRO入札も予定されており、コンスタンシオ副総裁が述べるように、当面は現行ツールの実行とのその効果を検証する段階と評価するのが妥当だろう。なお、2015年以降、ECB理事会は輪番制が採用されると共に、6週間毎(年8回)の開催となる。その関係で1月のECB理事会は22日開催となり、1か月半以上間隔が空くことになる。つまり、今回現状維持にすることで、ECBはそれだけ思考の時間が確保できることになる。

	本 邦	海 外
11月28日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月全国消費者物価指数</li> <li>11月東京都都区部消費者物価指数</li> <li>11月鉱工業生産(速報)</li> <li>10月新設住宅着工件数</li> </ul>	
12月1日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>7~9月期法人企業統計</li> <li>11月自動車販売台数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米11月ISM製造業景気指数</li> </ul>
2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月マネタリーベース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米10月建設支出</li> </ul>
3日(水)		<ul style="list-style-type: none"> <li>米11月ISM非製造業景気指数</li> <li>米11月ADP雇用統計</li> <li>米7~9月期労働生産性(確報)</li> </ul>
4日(木)		<ul style="list-style-type: none"> <li>ECB理事会</li> </ul>
5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月景気動向指数(速報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米11月雇用統計</li> <li>米10月製造業新規受注</li> <li>米10月貿易収支</li> </ul>

### 【当面の主要行事日程(2014年12月~)】

日銀金融政策決定会合 12月18~19日、2015年1月20~21日、2月17~18日)  
 欧州中銀理事会(2015年1月22日、3月5日、4月15日)  
 米FOMC(12月16~17日、2015年1月27~28日、3月17~18日)

以 上

国際為替部  
 チーフマーケット・エコノミスト  
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2014年12月)

月	火	水	木	金	週末
1 日本 自動車販売台数(11月) 日本 法人企業統計(7~9月期) 米国 ISM製造業景気指数(11月)	2 日本 マネタリーベース(11月) 米国 建設支出(10月)	3 米国 ISM非製造業景気指数(11月) 米国 労働生産性(確報、7~9月期) 米国 ADP雇用統計(11月) ユーロ圏 GDP(2次速報、7~9月期)	4 ユーロ圏 ECB理事会	5 ドイツ 製造業受注(10月) 米国 雇用統計(11月) 米国 製造業新規受注(10月) 米国 貿易収支(10月) 米国 消費者信用残高(10月)	
8 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 企業倒産件数(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 GDP(2次確報、7~9月期) ドイツ 鉱工業生産(10月)	9 日本 マネーストック(11月) ドイツ 貿易収支(10月)	10	11 米国 小売売上高(11月) 米国 企業在庫(10月)	12 日本 鉱工業生産(確報、10月)	
15 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、10月) 米国 鉱工業生産(11月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 FOMC(~17日) ユーロ圏 貿易収支(10月) ドイツ ZEW景況指数(12月)	17 日本 貿易収支(11月)	18 ドイツ IFO企業景況感指数(12月)	19 日本 景気動向指数(確報、10月)	
22 日本 金融経済月報 米国 中古住宅販売(11月)	23 米国 個人所得・消費(11月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 耐久財受注(11月) 米国 GDP(3次速報、7~9月期)	24	25 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨	26 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 東京都都区消費者物価(12月) 日本 商業販売統計(11月) 日本 鉱工業生産(速報、11月)	
29	30	31 米国 シカゴPMI(12月)			

(注)\*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー(2015年1月)

月	火	水	木	金	週末
			1	2 米国 建設支出(11月)	
5 日本 自動車販売台数(12月)	6 日本 マネタリーベース(12月) 米国 製造業新規受注(11月)	7 米国 貿易収支(11月) 米国 FOMC議事要旨 ユーロ圏 失業率(11月) ユーロ圏 消費者物価(速報、12月)	8 米国 消費者信用残高(11月) ドイツ 製造業受注(11月)	9 日本 景気動向指数(速報、11月) 米国 雇用統計(12月) 米国 卸売売上高(11月) ドイツ 鉱工業生産(11月) ドイツ 貿易収支(11月)	
12 日本 *企業倒産件数(12月)	13 日本 国際収支(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(12月) 日本 貸出・預金動向(12月)	14 日本 マネーストック(12月) 米国 小売売上高(12月) 米国 企業在庫(11月) ユーロ圏 鉱工業生産(11月)	15 米国 生産者物価(12月) ユーロ圏 貿易収支(11月) ドイツ GDP(1次確報、10~12月期)	16 日本 第三次産業活動指数(11月) 米国 鉱工業生産(12月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、1月) 米国 消費者物価(12月) ユーロ圏 消費者物価(確報、12月)	
19 日本 鉱工業生産(確報、11月)	20 日本 日銀金融政策決定会合(~21日) ドイツ ZEW景況指数(1月)	21 日本 景気動向指数(確報、11月) 米国 住宅着工(12月)	22 日本 金融経済月報 ユーロ圏 ECB理事会	23	
26 日本 貿易収支(12月) ドイツ IFO企業景況感指数(1月)	27 米国 新築住宅販売(12月) 米国 耐久財受注(12月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(11月)	28	29	30 日本 鉱工業生産(速報、12月) 日本 労働力調査(12月) 日本 家計調査(12月) 日本 全国消費者物価(12月) 日本 東京都都区消費者物価(1月) 日本 新設住宅着工(12月) 米国 GDP(1次速報、10~12月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、1月) 米国 シカゴPMI(1月) ユーロ圏 失業率(12月) ユーロ圏 消費者物価(速報、1月)	31 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、1月)

(注)\*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuho.com/jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年11月27日	最近のドラギ発言などを受けて～金購入なども含め～
2014年11月26日	GPIFの売買余地や基礎的需給への影響などについて
2014年11月25日	解散総選挙後のアベノミクスを待ち受けるもの
2014年11月21日	週末版
2014年11月20日	豪ドル資産の軟調が目立つ
2014年11月18日	過去の円安局面と違う2つの要素～実質金利と需給～
2014年11月17日	本邦7～9月期GDP～続く所得面の悪化～
2014年11月14日	週末版(2周年を迎えたアベノミクス～何が変わったのか～)
2014年11月11日	本邦9月国際収支統計などについて
2014年11月10日	【特別版】『中期為替相場見直し』の臨時改訂
2014年11月7日	週末版(ECB理事会を終えて～正式に始まった「量」への挑戦～)
2014年11月6日	当面は温存されそうな実現不可能なポリシーミックス
2014年11月5日	ECB理事会プレビュー～現状維持を予想～
2014年11月4日	日銀金融政策決定会合(10月31日開催分)
2014年10月31日	週末版
2014年10月30日	FOMC声明文を受けて(10月28～29日開催分)
2014年10月28日	カバードボンド購入額をどう読むか?
2014年10月27日	欧州ストレステストを受けて～本当の勝負はこれから～
2014年10月24日	週末版(ユーロ圏PMIや域内のスラック(弛み)について～インフレ率が上がらない構造的背景～)
2014年10月23日	ECB社債購入を巡る3つの問題点
2014年10月22日	現時点の消費増税に対する市場の反応イメージについて
2014年10月21日	カバードボンド購入プログラム(CBPP3)などについて
2014年10月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2014年9月分)
2014年10月17日	週末版(米為替政策報告書について～ドル高容認か?～)
2014年10月16日	昨日の相場混乱について～ドル/円は適正な水準まで調整へ～
2014年10月15日	原油価格下落が日米欧金融政策に与える影響
2014年10月14日	G20を終えて～円とユーロで全く違う「通貨安の正当性」～
2014年10月10日	週末版(ドル/円相場の新しい節目～均衡水準は20%円安に?～)
2014年10月9日	FOMC議事要旨(9月16～17日開催分)を受けて
2014年10月8日	日銀金融政策決定会合を終えて～迫る期限の弾力化～
2014年10月7日	経済財政諮問会議(10/1)議事要旨を受けて
2014年10月6日	米9月雇用統計を終えて～経験則に照らせば利上げ?～
2014年10月3日	週末版(ECB理事会を終えて～需要不足と向き合うECB～)
2014年10月2日	短観9月調査に見る円安コストの陰
2014年10月1日	ECB理事会プレビュー～「量」を評価軸とする難しさ～
2014年9月29日	ドル高を阻むもの
2014年9月26日	週末版
2014年9月25日	安倍首相発言や最近の株高などについて
2014年9月24日	ドラギ総裁の欧州議会証言について～「量」の再強調～
2014年9月22日	ケアンズG20 財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年9月19日	週末版(第1回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)について～厳しくなる「量」の追求路線～)
2014年9月18日	FOMC(9月16～17日)を終えて
2014年9月17日	ドル/円相場の水準感に係るヒント
2014年9月16日	スコットランド独立についての論点整理
2014年9月12日	週末版(必要なのは「円安前提の成長戦略」～心配しなくても円安は進む～)
2014年9月10日	官製相場となったユーロ相場への考察
2014年9月9日	円安を巡る財界要人発言を受けて～伸び悩み実質GDI～
2014年9月8日	本邦7月国際収支統計などについて
2014年9月5日	週末版(ECB理事会を終えて～官製相場の様相を呈してきたユーロ相場～)
2014年9月4日	9月レバトリの妥当性や今後の直投収益などについて
2014年9月3日	105円台を受けて～日米2年金利差からの推計値など～
2014年9月2日	再び迫る「市場のユーロ売りvs.SNBのユーロ買い」
2014年9月1日	ECB理事会プレビュー～最大の注目点は声明文?～
2014年8月29日	週末版
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下～財政が嫌なら介入のみ～
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」～驚きずくめのジャクソンホール講演～
2014年8月25日	イェレンFRB議長講演～「見たいように見る」相場～
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず～俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計～)
2014年8月21日	FOMC議事要旨～「終わりの始まり」をどう考えるか～
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向～旅行収支は経常収支を支えるか～
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い～3つの契機～
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4～6月期GDPなどを受けて～日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ～)
2014年8月13日	本邦4～6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB理事会を終えて～曇り掛けるような口先介入は焦りの表れ?～
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー～「最良の地合い」で現状維持～
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方～認識は変わらず～
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて～ECBとしては「早く結果が欲しい」状況～)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型LTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(GPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が出始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版(「事後的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～)
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か?～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため?
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解金騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に奇立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを仄めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(「動かない相場」は企業の想定通り?～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～